

生徒の援助希求的態度の育成

—感情に着目した授業実践と校内の環境づくりを通して—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 養護教育実践系
浅生 範子

本研究は、生徒の「相談する力」「サポートする力」を高め、学級・学校の環境の中での相互援助を促進することで、援助希求的態度を育成することを目的とした。BPSモデルに基づいて捉えた生徒の実態から、自他の感情への理解を深め、相談相手を検討したり、困った場面で周囲に助けを求めたりする授業実践による感情の言語化、短学活の時間を活用したミニ・ピア・サポートによる他者とのつながりとサポート、健康相談の工夫による相談できる機会の充実を実践の手だてとした。

実践の分析から、これまで他者とのつながりや感情の言語化に難しさを感じていた生徒が、本実践を通じて周囲の人との関係を構築し始め、気持ちを言語化できるようになる様子がみられた。養護教諭が個人と、個人を取り巻く環境への働きかけを行うとともに、これらが相互に影響し合うようにコーディネートする役割を担うことで、援助希求的態度が育成される可能性が示唆された。